



日本福音同盟 Japan Evangelical Association

〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台2-1 0CCビル内

TEL:03-3295-1765 FAX:03-3295-1933 E-mail:adminoffice@jeanet.org

東日本大震災から一年を経ての理事長所感

2012年6月 JEA 総会

日本福音同盟理事長 安藤能成

神は彼らを祝福された。神は彼らに仰せられた。「生めよ。ふえよ。地を満たせ。地を従わせよ。海の魚、空の鳥、地をはうすべての生き物を支配せよ。」 創世記1章28節

東日本大震災後の昨年6月に日本福音同盟の理事長に選出されてから1年間に過ぎようとしています。その間、日本福音同盟としても東日本大震災への取り組みを多くの教会の皆様とともに行わせていただきましたが、これからの残されている2年間の任期中もそれは最重要課題だと認識しています。その働きのなかで今まで深く考えてこなかった、気づいてこなかった神学的、社会的課題に直面させられてきました。それだけではなく、一人の人間として反省すべきことは、今回の原発事故が起きるまで無批判に原子力利用による大都市の文化に浸ってきた事実です。

原子力利用については必ずしもキリスト者の間で一致した理解があるわけではありません。しかし昨年の原発事故による人と自然界全体への甚大な被害と恐ろしい影響を考えると、過去を深く悔い改めることなくして、これから先に進むことはできないと考えます。電力会社やそれを推進してきた政治経済界を批判することは容易かも知れません。けれども無反省にエネルギーを利用してきた自分自身が加害者であるという認識を持たなければ、真実な悔い改めには至らないでしょう。そして悔い改めに立たなければ将来を語ることはできないと思います。

冒頭の聖句によれば、私たちの関心は宗教的分野に限られているのではなく、とくに宗教改革によって認識されてきたように、私たちが神として信じる方は全被造物の支配者であり、全領域はその神の領域であるということ、それは私たちがこの世界のすべての領域を神学的、社会的課題として取り組まなければならないということです。そして今回の震災によって引き起こされた原発事故をはじめとして、さまざまな問題についてもキリスト教信仰者の立場から再認識しなければならず、何が正しくて何が間違っているのかを正確に検討して、けっして独りよがりになることなく、この時代に立てられている預言者として声を上げるべきときには、上げなければならないということを思います。さまざまな利害関係によって成り立っている社会で教会がどのような立場に立たされているのか、どのように発言するのは極めて知恵を要することですけれども、黙し続けることは許されないでしょう。

果たして人類は神の最初の命令を正しく行ってきたのでしょうか。「従えよ」「支配せよ」ということばは人類の都合に従属させるということではありません。「正しく治める」ということでしょうか。それは常に神が創造されて、いのちを与えられたもののいのちをつないでいくことであって断ち切ることでなく、生み出すことであって破滅させることではありません。人間が罪を犯した、創造者である神に逆らったために、「被造物が虚無に服した」という事態に陥っていると聖書は教えています。間違った支配です。

「福音」イエス・キリストの十字架の死による贖いと復活の目的は、たましいの救いだけでなく、人類の間違った支配からキリストの正しい支配に、人間をはじめとして、被造物を位置づけることです。

私たちはこの視点に立ってすべての事柄について見直す必要があります。そこに教会の存在意義があります。

聖書の預言によれば確かに今の世界は終りを迎えることになるでしょう。けれどもいつの時代にあっても教会はこの世の傍観者でいることは許されません。自分たちはたましいの救いを受けているから安心ということではないのです。福音を託された者としての責任を果たさなければならないのです。

原子力利用ということ一つ取り上げても簡単に結論付けることには困難を覚えます。日本福音同盟では大震災と原発事故以来、神学委員会と社会委員会を中心に取り組みを進めています。もちろん理事会でも会議のたびにこの課題を取り上げてきました。

世界の創造のときに主なる神が完全なものとして宇宙とこの世界を造り上げられた。その被造物世界をどのように生活のために正しく用いるのか、ということをはじめから捉え直すことが今、求められていると思います。

キリスト者である一人ひとりがこのことについて考え、祈り、行動することができるように期待します。どうかいっしょに考えてください。祈ってください。そして必要な行動が示された時には行動してください。東日本大震災によって起こされた苦難は一年以上経った今も続いています。そして大震災は私たちに新しい宣教の課題も提示しています。その課題もしっかり受け止めさせていただきたいと思います。

以上